

Suara

2015 年 10 月 14 日リリース 6th アルバム『声』

ライナーノーツ text by 岩井喬

10 年という月日の時間。単純にその数を目にすると途方もなく長いものと感じられるかもしれない。しかし実際その期間を振り返ると、10 年前の出来事がつい最近のことという感覚もあり、“長いようで短い”という言葉が当てはまるのではないかな。

Suara にとってデビューからの 10 年はどんな月日であったのだろう。それは“長いようで短い”と簡単にまとめられないほど密度の詰まった歳月であったのではないだろうか。2005 年 9 月、ゲーム『鎖 -クサリ-』オープニングテーマ「睡蓮-あまねく花-」／エンディングテーマ「星座」でデビューを果たし、直後にリリースされた TV アニメ『ToHeart2』エンディングテーマ「トモシビ」や、2006 年の TV アニメ『うたわれるもの』主題歌「夢想歌」のヒットによって Suara の名は徐々に浸透していった。これ以降も数々のアニメ／ゲームのタイアップを担当し、ライブやイベント出演の経験を重ねる中で着実に実力を磨き、アニソン業界における実力派シンガーとしての存在感も高まっている。

そうした経験を積むうえで大きな飛躍となったのが高音質 SACD『Pure』シリーズでの歌唱担当や求道会館での 5.6MHz・DSD レコーディング、iFi Audio×『NetAudio』誌の企画による 11.2MHz・DSD レコーディングで実践してきたライブと同様の“一発録り”収録への挑戦である。数多くの貴重な経験や出会い、鍛錬によって掴んできた歌唱力や表現力の向上は明らかに次の作品作りの糧となるはずだ。そして前作から 4 年、様々な出来事や想いを積み重ね 6 枚目のアルバムとなる『声』がここに誕生した。

まず全体を聴いて感じたのは良い意味で肩の力の抜けた、自然体で歌っている Suara の晴れやかな心象風景だ。とはいえ、これは筆者の主観的なものであり、正しいかどうかは本人に聞いてみないとわからないことではある。しかし出産という、人生における大きなターニングポイントを経たこともあり、人間としてもひとまわりやふたまわり、余裕を持ったような、心の成長も実感できるのだ。そしてアルバムそのものも“第二のデビュー”とも捉えられるような新鮮な色彩に溢れた楽曲が揃う傑作となっている。それはアルバムタイトルが『声』という Suara の語源と同じ、いわば本作はセルフタイトルということもあり、並々ならぬ彼女の想いもそこから感じ取ることができるのではないかな。

まず1曲目はゲーム『うたわれるもの 偽りの仮面』OP曲である「ヌエドリ」だ。どこかオリエントルで無国籍な雰囲気を持つ楽曲は独特な展開を持っており、イギリスの名門スタジオ、アビーロードで収録された26人の大編成ストリングスによる壮大で奥行きあるサウンドの効果も高く、一度聴いたら忘れられないインパクトを放つ。続く2曲目には格闘ゲーム『AQUAPAZZA』OP曲「Future World」、3曲目にTVアニメ『カードファイト!!ヴァンガード リンクジョーカー編』ED曲「Fly away-大空へー」とお馴染みのアップテンポナンバーが続き、リスナーのハートをがっしりと掴んだところで4曲目に奥井雅美・作詞／作曲の「声を聴かせて」でSuaraの得意とするしっとりと落ち着いた世界観に引き込んでゆく。ハイレゾ音源ではこの楽曲でバックボーカルに参加している奥井の声の質感もくっきりと感じ取れることであろう。

5曲目の「すべてをあなたに」もSuaraの得意とする哀愁あるメロディと優しく聴き手に語りかけてくるような歌の落ち着きが印象的だ。そして数年前からメロディやアレンジが存在していたというバラード「恋夢」や「脆弱」へと続く流れも秀逸で、穏やかかつ潤いあるSuaraの声の表情も存分に味わうことができる。ちなみに6曲目の「恋夢」は「ヌエドリ」と同じくアビーロードスタジオでのストリングス収録を行った楽曲であり、独特の深みと奥行きある音色がよりバラードの音色にフィットするかのようだ。

そしてスパニッシュな雰囲気を色濃く感じさせるガットギターの音色が印象的な「君の前では少年のまま」(ゲーム『ティアーズ・トゥ・ティアラII 覇王の末裔』ED曲)から再び“陽”の世界にリスナーをいざなってゆく。次はとびきりキラキラと煌びやかでポップなサウンドを放つ「虹色の未来」(OVA『ToHeart2 ダンジョントラベラーズ』OP曲)と続き、キレ味良いデジロック調の「I'm a beast」(ゲーム『ダンジョントラベラーズ2 王立図書館とマモノの封印』OP曲)までたたみかける。このタイトなリズム感で切れ込む他の楽曲にはない歌い方も「I'm a beast」ならではだ。

エンディングに向け盛り上がってゆく展開の中、一服の清涼剤というような印象で登場する11曲目「Song of...」は爽やかかつ親しみのあるメロディラインが印象的で、ボーカルの柔らかい質感と歌詞の優しく前向きに捉えられる世界観がスッと心に入り込んでくる。12曲目「Dream」はSuara作詞による爽快なロックで、「トモンビ」と対を成すようなリスナーの背中を押してくれる新たなアンセムソングだ。どこことなく80年代～90年代前半にかけてのポップさを持ったハードロックを匂わせる曲調がまた日本人の琴線に触れやすい、と個人的には考察しているが、小難しいことは抜きに、ライブ

で楽しめる定番曲として人気が出そうな一曲である。そしてラストの「初空」は Suara 作詞・作曲というポイントに加え、彼女の母親らしさを垣間見る子守唄テイストも感じられる心地良い楽曲。“一発録り”を経験してきたメンツで仕上げた、Suara の成長を実感できる一曲でもある。この全 13 曲をずっと聴いてゆくと、まるでライブのセットリストのような構成となっていることもあり、もう一度初めから聴きたくなるような高揚感や充実感を覚えるのは筆者だけではないだろう。全編に流れるロックテイストはギターを担当する田村太一によるところも大きい（個人的には田村のハードロックテイスト溢れるエレキサウンドが大好きだ）、Suara のパフォーマンスもそれに呼応するかのように柔軟な抑揚を持って歌い込んでいる印象も受けた。

その理由にも繋がるポイントに挙げるのは本作で取り入れられた録音・ミックス手法の違いからくるボーカルの際立ちと、ベースやドラムといったリズム楽器をはじめとする低域方向への音伸びを重視したバランス作りだ。「ヌエドリ」と「恋夢」で実践されたアビーロードでのストリングス収録の話には続きがあり、この 2 曲は『アナと雪の女王』の主題歌やサントラも手掛けたデヴィッド・バウチャーが LA でミックスダウンを行い、世界屈指のマスタリングエンジニアであるボブ・ラディックがプリマスタリングを施した。そのサウンドバランスをできる限り他の楽曲でも実践しただけでなく、マスタリングを担当した鈴木浩二も普段と手法を変え、全体の音色を整えることに徹したのである。ハイレゾ音源では特にソリッドに引き立つボーカルの明瞭さに加え、低域の豊かさの再現性もポイントとなっており、スピーカー再生ではヘッドホン環境では味わえないような深みのあるローエンドの響きを堪能できるはずだ。

このような取り組みの数々が Suara の“ドライブする歌唱”を支えているのだが、まずはじっくりと楽曲を聴き込んでいただき、これまでのアルバムとは違った表現力や柔軟に呼応する Suara の自在な声色を味わっていただきたい。今から次回作を期待するのは気が早いかもしれないが、ライブパフォーマンスも含め、今後の Suara の活躍も実に楽しみである。